

## ◇ 出会い

### 「なんと澄みきった音」

奏でられるヴァイオリンの音色に、私は強い衝撃を受けました。

そこは、マリア・カラスの師デ・イダルゴ女史最後の弟子、河野明子とイタリアの仲間たちによるコンサート会場。どの音も、魔法のように耳もとで私を元気づけてくれます。周りの人たちも頬をゆるめてステージに魅了されています。すばらしい時間をすごせた喜びと、これまでこのような「音」と出会えなかった口惜しさに、呆然と家路につきました。

これがグラウコ・ベルタニン氏との出会いです。そして私は彼の門をたたきました。

## ◇ レッスン

彼は、陽気なイタリア人で、大のお寿司好き。

レッスンは、打ち解けた雰囲気の中、ジェスチャーを交えていつも全力。

そしてメッセージは常にシンプル。

### 「単純なことを、クオリティ高く」

一つ一つの課題は簡単そうで、じつは奥が深い。

「音を出すことが目的ではありません。音でいかに伝えるかが重要なのです」

「技術のために音楽があるのではなく、音楽のために技術があるのです」

宝物がこんなところに、という発見の連続でした。

## ◇ ステージへ

グラウコ先生の周りには、彼の人柄に惹かれて素晴らしいプレイヤーたちが集まります。出会いから5年余り。イタリアと日本を往き来するうちに、私もその仲間に加えていただけるようになり、このたび、弦楽四重奏《クアルテット・ジョット》として福岡、そして私のふるさと神戸で、さらに《プロジェクト・ジョット 2016》として日本各地で演奏会を開催する運びとなりました。

これらのコンサートには、

「純粋な『音』が持つ力、その『音』で彩られた『音楽』を、多くの方に体感していただきたい」

「私が味わった『感動』を、皆さんにお届けしたい」

という思いが込められています。

クラシックを愛する方はもちろん、大人も子どもも、みんなで楽しめるイタリアの作品をそろえました。

「心を空っぽにしてピュアな『音』を受け入れる」

そんな素敵な時間をすごしに、演奏会場に足をお運びになりませんか。